

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	近所の公園・喫茶店・飲食店などに出かけ、地域の人と交流を深め認知症を理解してもらおう。今年より夏祭りを開催し、地域の方々とよりいっそう交流を深めた。	○ 今より、いっそう地域の方々と交流を深めていきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎朝、申し送り時に理念を唱和し、理念の実践にむけて日々取り組んでいる。	○ これからも確実に理念の唱和を継続し、初心を忘れず職員全員の意識を高めていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族会・運営推進会議などで、家族・地域の方々などに理解してもらえよう取り組んでいる。2ヶ月に1回発行しているお便りの中に理念を掲載し、家族様に伝えている。	○ 運営推進会議に地域の交番等、その他いろいろな地域の方々に声をかけ、参加していただくよう取り組んで行きたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	デイサービスの利用者の方、近くの喫茶店のマスター、スーパーなどで、気軽に挨拶や声をかけ合って日常的な付き合いができるように努めている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の防災訓練、文理の学園祭、学生の実習やボランティアの受け入れをし、地元の人々と交流する事に努めている。町内会に加入し今年秋祭りに参加させてもらい、お神輿に寄っていただいた。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者及び職員は地域の様々な研修、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めています。実習生の受け入れやD/Sの利用者との交流も積極的に行っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員間で意見を出し合い、何度も議論をしながら評価をし、それに向けて取り組み実施している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や年間事業計画を報告し、話し合いを行い、いろんな意見を出し合い、サービス向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1回介護保険課に出向き、顔馴染みの関係を作り市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持つ事ができていません。	○	学ぶ機会を作り、必要な人には活用できるよう支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされることがないように、職員間どうしのコミュニケーションを図り、防止に努めている。虐待防止マニュアルを作成し、ミーティングで勉強会を開き職員間で話し合い、周知徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約する際は、利用者や家族に十分な説明を行い理解納得をしていただいている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>グループホーム玄関に意見箱を設置し、利用者様からの意見・苦情があった場合、管理者・職員は傾聴し解決していくように努力している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>預かり金については収支報告をし、領収書をつけて送っている。健康状況については、電話や面会時・お便りにて報告している。今年度から2ヶ月に1回家族様にお便りを発行し、利用者の近況や行事等を報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、意見を運営に反映させている。面会に来られた時に積極的にコミュニケーションを図り、意見・要望等を聞くように努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回ミーティングや責任者会議を開き意見交換をし、向上に努めている。職員から意見や要望がある時にはその都度聞き、話し合いの機会を作っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>家族会・運営推進会議・行事等状況の変化に合わせて、必要な時間帯には職員確保の調整をしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在は、異動や離職が多少あるが利用者へのダメージを防ぐ配慮はしています。</p>	<p>○ これからは、異動や離職がない職場にするよう、職員の育成に努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて研修を受け、法人内・外の研修もすすんで受けている。	○ これからは、職員全員が研修に参加する機会を確保していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修の受け入れ施設として、他の施設の方々と交流を深めたり研修会などの活動を通じて情報交換し、サービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。研修委員として参加し、研修のお手伝いをしています。	○ 相互評価等に積極的に参加し、交流を深めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	夏には、職員の納涼祭 冬は忘年会を開催し、無礼講でストレスを発散しています。管理者・職員がなんでも話しやすい環境づくりに努めています。	○ 職員の日帰り旅行等を考えています。心身共にリフレッシュし、今後の仕事に活かしていきたいと思います。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、職員の悩み等を受け入れ話し合いの場を設けていただき、解決に向け話し合っています。研修などは、進んで参加しています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者からの相談があった場合は、ゆっくり耳を傾け話をし、受け止めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時より家族様から困っている事・不安な事は親身になって聞き入れ、入所中も電話や面会時等に話し合い相談しています。いつでも受け入れる努力はしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、まず必要としている事を見極め対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	帰宅願望のある利用者に関しては、家族様に協力をしていただき、外出や面会を頻繁に取り入れて、徐々に馴染むように努力し工夫しています。本人の馴染みの物を持ち込んでもらっている。	○	家族様ともなんでも話し合い、相談できる馴染みの信頼関係を作り上げていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様から、昔のことわざや慣わしを教えていただいたり、楽しい時はいっしょに笑い支えあう関係を築いています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事時には、家族様も一緒に参加していただき共に楽しみ喜んでいただいています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には、家族様から本人との関わりを、いろいろ話しをしていただき、より良い関係を築いていけるよう努力しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元出身の利用者様に関しては、近所の喫茶店等に食事に出かけ昔話に花を咲かせ、途切れない関係づくりに努めています。	○	地元の利用者様だけではなく、他の利用者様の昔馴染みの場所に出かけ、途切れないような支援をしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	だんらんの場合でのその人それぞれの役割・居場所づくりに心がけ、利用者様同士が支えあえる関係づくりに努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、その後利用者様の紹介などの問い合わせをしていただいたりして、断ち切らない付き合いを大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	偏食の利用者様に関しては、特別なメニューを作っています。困難な場合には、本人と話し合い検討しています。利用者様入院時には、買い物や身の回りの世話等本人の希望により、職員が交代で病院に出かけています。病院受診時にも職員が付き添っています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、個人個人の生活歴を大切にし、毎朝お化粧する人には支援し、コーヒー好きで外出好きの方には喫茶店に出向きコーヒータイムを楽しんでいます。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの心身状態や生活リズムに合わせた支援をしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを開催し、意見やアイデアを反映した介護計画を作成しています。家族様から意見を聞き、介護計画書に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合カンファレンスを開催し、介護計画を見直し現状に即した介護計画を作成しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等を個別記録・申し送りノートに分かりやすく記入し、介護計画の見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスと併設しているため、マッサージ器・カラオケ・慰問・誕生会等その時々々に応じて柔軟な支援をしています。	○	短期入所・通所介護の受け入れなどにも取り組んでいきたいと思います。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議においては、民生委員や地域の交番の警察官・包括センターの方に来ていただき、利用者様と世間話等をして認知症に対する理解・協力を深めています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイサービスと併設しているため、お誕生会や音楽療法や季節の行事毎に参加しています。週に1回ボランティアで理学療法士の先生に来てもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議時に包括センターの方と意見交換し協働しています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	忙しい家族様に対しては、職員が病院受診に同行し、受診結果を家族様に報告して本人及び、家族様の希望を支援しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	毎朝及び11時に院長の巡回があり状態変化がある入所者様の報告をその都度行い、院長より適切な指示を受けています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎朝、常勤看護師長に状態報告をしています。褥瘡処置・点滴、受診時の付き添い等の支援をしている。夕方にも利用者の健康状態の様子観察をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者様が入院した時には、職員交代で様子を見に行き主治医と情報交換や相談に努めています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に看護師により看取り介護についての指針の説明を家族様にし、方針を共有している。状態が変わるたびに、医師・看護師から家族様に状態報告し、その都度家族様の要望に答えるようにしています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態変化がある度に、医師・看護師・職員全体で話し合い、今後の変化に備えて検討や支援に取り組んでいます。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者様が、環境の変化に戸惑われないように昔馴染みの家具や生活用品を持ってきていただき、ダメージを防ぐ事に努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人個人の自尊心を尊重するような声かけを行っています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者にあわせて声かけをし、決めた事を押し付けるような事はせず、一人ひとりの利用者が自分で決定できるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにそって見守りながら生活を送り、体調に配慮しながら本人の気持ちを尊重し柔軟に対応している。	○ 行事等があり忙しい日は、少し職員側のペースに合わせているところがあるので改善していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日頃から化粧やお洒落を楽しんでもらっています。行きつけの美容院でカットや毛染めをし、その他職員によるカットなどを行っています。ボランティアによるエステ(美顔)にも参加しています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・片付け等を共に行い、職員と一緒におやつ作りを楽しんでいます。食事は同じものを一緒に、同じテーブルを囲んで楽しい雰囲気です。たこ焼き・お好み焼き等は、時々一緒に作りおいしく食べています。	○ おやつだけでなく、食事作りも利用者と一緒に作ってきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が好きなおやつ等は、一緒に買い物に出かけ購入しています。一人ひとりの嗜好品を理解し支援しています。パン屋の訪問販売等も利用しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導をトイレでの排泄を促しています。利用者それぞれの排泄パターンを把握してトイレ誘導をしています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴日は決めています。入浴希望がある利用者については、いつでも入浴できるように支援し、入浴拒否をされる利用者に対しては言葉がけの工夫等で対応しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、一日の生活リズムづくりをして、ゆっくり休息・安眠できるように支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合った楽しみや、役割を見つけて支援しています。料理好きな利用者は、職員と一緒に寿司等を作っています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている人と事務所で管理している人といまず。パン屋が来たときに自分で好きなパンを選び、自分で支払っていただいています。また日用品等は買い物に出かけています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性に外食・買い物・散歩等に出掛けています。馴染みの喫茶店等に車椅子で出掛け、近所の風景を楽しんでいます		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見・イチゴ狩り・みかん狩り・ビッグひな祭り・アスティの阿波踊り見学等、職員が全員出勤し出かけています。家族の方にも参加を呼びかけています。	○	家族と一緒に出かけられる機会をもっと多く作ってきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば事業所の携帯電話を使用し、人目を気にせず話をさせていただいています。手紙等も出せるように支援しています		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来所しやすい雰囲気づくりを心がけています。訪問時間は決めていません。常に笑顔を忘れず、いつでも都合の良い時間に来ていただければ、居室でソファーに腰をかけおやつも一緒に食べています。一緒にテレビを観たりと、居心地のよい空間づくりを心がけています。家族や知人の訪問には、季節に合わせた飲み物を出し、くつろいでいただいています。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加し、職員の意識を高め拘束のないケアをしています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室等、当グループホームには鍵を付けておりません。利用者一人ひとりの外出に癖や傾向をつかみ、常に見守りをし職員の連携を図っています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、食堂にいる職員が見守りをし、夜間は詰所から居室が見通せ24時間利用者の安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自分でポットからお湯を入れる利用者に関しては、日中はテーブル・夜間は居室のテーブルにと職員が常にお湯があるようにポットに補充しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の想定される事故を職員で話し合い検討しています。事故が発生した場合には、事故報告書を作成し、速やかに家族様への説明・報告、介護保険課へ提出しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救命救急講習を毎年実施しています。緊急時マニュアルを作成し、周知徹底を図っています。24時間院長及び看護師に連絡が取れる状態になっています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し、町内の防災訓練に参加する。避難場所の地図を廊下に掲載し、常に目に付くようにしています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	普段から家族との関係づくりを親密にし、起こり得るリスクについては職員全員把握し、家族に対して対応策を説明しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルや食事摂取量のチェックを実施し、食欲や様子の変化が見られた時は、すぐに院長・看護師に報告し対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には、きちんと本人に渡し服薬確認及び服薬介助をしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	歩行訓練等、適度な運動を実施し自然排便を促しています。希望の利用者には、毎朝ヤクルトを配達してもらい飲んでいただいています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声かけを行い、口腔ケアを実施しています。就寝前は義歯の洗浄を行っています。希望者には訪問歯科医に来てもらっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェック表に記録し、職員が情報を共有しています。その人が食べやすいようにスプーン・フォーク等を使用してもらっています。熱発者がいる場合には、特に水分補給に気を付けています。ポカリスエット等で補給しています。食事摂取量の少ない方には、院長の指示により、栄養補助食品を摂ってもらっています。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策、食中毒マニュアルを作成しており予防・対策に努めています。毎年利用者・職員共にインフルエンザ予防接種を受けています。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・おしぼり・ふきんは、毎晩漂白し清潔を心がけています。食事前には、必ず手洗い・消毒を実施している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口に手作りの案内板を掲示し、ベンチ・プランター等をおいています。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい音楽を流したり、廊下には季節感のある利用者の写真等を掲示し、家具の配置は一緒に考え工夫しています。中庭の月下美人の花が咲くのを楽しみにしています。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に椅子を置き、気の合った利用者同士で戸外を眺めたり、廊下にソファを置き休息場所を確保しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや椅子など使い慣れた物を置き目覚まし時計・ラジオ等も持ってきてもらっています。家族の写真等も置いています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室・食堂の換気を常に意識し、室温調節をこまめにしています。トイレは換気扇・消臭剤を置き工夫しています		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・風呂場に手すりを取り付け、安全確保と自立への配慮をしています。台所の流し台の高さも利用者の使いやすい高さになっています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室に大きく分かりやすいように、名札を取り付けています。状況に合わせて環境整備に努めています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置いて、日向ぼっこができるように工夫しています。中庭に季節の花植えを楽しんでいます。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日、笑顔にあふれ明るい雰囲気の中で、家庭的な生活を送っています。当グループホームは、昨年度数名の看取りを行いました。看護・医療・介護の面で連携がスムーズにできました。ほとんどの家族様は、住み慣れた当グループホームでの最期を望まれております。

スタッフ一同自信を持って、看取りに取り組んでいきたいと思っています。